

もくじ・ハザードマップの活用方法	1	揺れやすさマップ	20
避難行動を事前に決めておこう	2	土砂災害対策	21
5段階の警戒レベル	3	風水害対策	22
マイ・タイムライン	4	火災・竜巻・雷対策	23
ハザードマップの見方	5	感染症対策	24
避難所一覧・全体索引図	6	わが家の安全対策	25
詳細図1~6	7~18	非常時持出品・備蓄品	26
地震対策	19	わが家の「防災・緊急情報」メモ	裏表紙

「本書の特徴」

いつ起こるかもしれない様々な災害に対し、事前に備えることを目的として作成しました。予測不可能な災害の被害を最小限にとどめるため、日頃から内容に目を通し理解を深めていきましょう。また、災害時に持ち運びができるように冊子型としています。ヒモなどでつるし身近に置き、緊急時に持ち出してご活用ください。

※使用ビクトグラム…「JIS Z8210」[洪水 / 内水氾濫][土石流][崖崩れ・地滑り][大規模な火災][鉄道 / 鉄道駅]

ハザードマップの活用方法について

①住んでいる場所と予想される災害の範囲を地図上で確認しましょう

このハザードマップには、予想される土砂災害の範囲と浸水の範囲・深さが色分けされています。自分の住んでいる場所の被害想定がどれくらいになるのかを確認しましょう。

ただし、予想される被害想定範囲は、このとおりにはならないことがあります。

②避難場所を確認しましょう

このハザードマップ6ページの避難所一覧で、自分の住んでいる地区で指定されている避難所がどこかを確認しましょう。



③避難経路を考えてみましょう

このハザードマップで自分が住んでいる場所から避難所までの、避難経路を地図上で確認し、実際に避難所まで移動してみましょう。安全で移動しやすい広い道を選び、避難所までの経路を確認して、所要時間も計ってみましょう。実際に避難するときは、夜間・大雨・大人数での移動が考えられるため、所要時間は平常時の倍以上かかる可能性があります。

④家族や周辺住民と情報を共有しましょう

このハザードマップは家族と一緒に確認しましょう。地震、台風や大雨により、避難が必要になったときは、周辺住民、親戚、知り合いなどにこれから避難することと避難先を伝え、どこの施設に避難しているのか分かるようにしておきましょう。

安否確認には、災害用伝言ダイヤル(171)の利用も有効です。(裏表紙参照)

